

Hug 平尾台 プロジェクト

企業名：株式会社Cocoon
所在地：北九州市小倉北区大門1-5-1
西日本工業大学
地域連携センター704
事業者：壹岐尾恵美
設立：2010年

地方創生、地域活性のヒントが平尾台に。

伴走支援デザイナー：八木田一世



アイデンティティ/事業を突き動かす内発的動機

現在、建築設計、インテリアデザインやリノベーションの事業を展開する「株式会社Cocoon」。事業の中でも「Hug平尾台プロジェクト」は代表の壹岐尾恵美氏のライフワークとなっています。壹岐尾氏は大草原が美しいカルスト台地を有する平尾台出身。「子供の頃はその環境が当たり前で気付かなかったのですが、大人になって平尾台へ連れて行った友人やクライアントがダイナミックな景観に感動をしている姿に、平尾台の素晴らしさを改めて感じた」と言います。周囲で地域活性化に取り組む方々の影響を受け、北九州の未来を語るコンテンツ「KITAQ企画会議」を経て、平尾台の魅力を届けるプロジェクト「Hug平尾台プロジェクト」を立ち上げることに。空き家を活用した特区民泊「山の家 粹邑hiraodai」「ひつじcafé HIRAODAI」を開業し、現在は自分たちの拠点を平尾台に移して運営する山のデザイン事務所なども準備中です。



「ひつじcafé HIRAODAI」外観

ビジョン

壹岐尾氏の出身でもある小倉南区平尾台の価値を高めて、より良い場所にすること。自分たちの拠点も平尾台に移し、より近い距離で平尾台のさまざまなプロジェクトを実施していく予定です。平尾台の方々との関係性を生み出す場づくりを行い、設計デザインの技術を活かして過疎化や空き家問題に取り組んでいきます。その過程では平尾台の地域住民はもちろん、平尾台以外のステークホルダーも巻き込みながら実現を目指します。

強みや特徴

Cocoonは空間のプロフェッショナルが集う会社です。マンションデベロッパーをはじめ、さまざまな企業や個人をクライアントとし、主にインテリアや空間に関する困りごとを解決しています。自分たちが手を入れる空間設計のみならず、周辺の方々や地域をつなぐ「場」も含めてトータルプロデュースできることが強みで、まちとローカルの繋ぎ役としても活動しています。



壹岐尾氏と平尾台

経営課題

「Human/Hiraodai Universal Ground」の頭文字を取って名付けられた「Hug平尾台プロジェクト」。ここでしか体験できない自然の魅力を発信する、最初の取り組みはカレーイベントでした。平尾台の特色を活かしたカレーは、現在もカフェの看板メニューとなっています。その後、空き家を民泊やカフェにリノベーションし、訪れる人々が平尾台に滞在する時間を伸ばし、注目度も高まった頃、1つの課題が見えてきました。それは、関わる人たちと共有するビジョンが欠けていたことです。何を大切にするのか、どこを目指して歩くのか。改めて社員や社外のステークホルダーの方々と目線を合わせていくために、共通言語となるビジョン（理念）の必要性を感じました。そこで、デザイナーの八木田一世氏に相談し、伴走パートナーとして今後のビジョンのまとめ役を依頼しました。

デザイン経営での解決策

「整理が不得意で、言語化ができなかった」と語る壹岐尾氏。八木田氏は何かもののデザインをするのではなく、「Hug平尾台プロジェクト」の未来像や、大切にしていること、その想いを整理することから始めました。社員や関係者、小倉南区長など、さまざまな方の話に耳を傾けながら、プロジェクトへの関わりを生む背景には何があるのだろうかという視点で整理していったと言います。そのプロセスの中で、八木田氏が気付いたことは壹岐尾氏のエフェクチュエーションの視点です。エフェクチュエーションとは、自分たちが今できることや今持っている手段を明確に把握し、それらを活用して結果を導き出していくこと。壹岐尾氏の現在に至るまでの事業展開は、先に結果を追い求めたのではなく、事業を実施しながら臨機応変に動いた結果として、成果が出てきています。現在、佳境を迎えているビジョンの整理。ここからもう一度、平尾台の未来がさらに広がっていく予感がします。

アウトプット



「ひつじcafé HIRAODAI」内装



「山の家 粹邑hiraodai」からの眺め

これから

カルスト台地特有の鍾乳洞、石灰石の美しい山々を有する平尾台には以前からさまざまな人々が訪れていました。ケイビング（洞窟探検）やハイキングを楽しむ方、地質調査を行う研究者などです。その場所に民泊とカフェができたことで、人々にコミュニケーションが生まれ、更に多種多様な方々が平尾台を訪れてくれるようになりました。これからは次世代に良い形で引き継ぎ出来るよう、まずは魅力発信の土台づくりを進めます。壹岐尾氏の平尾台への想いは止まりません。